

# Urban Safari

[アーバンサファリ]

Mar. 2019 Vol. 08

Cover Story  
コリン・ファレル

Live your best life  
in comfort items.

快適さこそすべて。

# Olivier Saillard

オリヴィエ・サイヤール / ジェイムウエトン アーティスティック・イメージ&カルチャー・ディレクター

写真=正重智生 文=遠藤 匠

photo: Tomoo Syoju (BOIL) text: Takumi Endo

## 歴史家的な感性で描き出す 老舗の新たな“家系図”とは？

青山・骨董通りにある〈ジェイムウエトン〉の日本第1号店が、25年ぶりにリニューアルを果たした。手掛けたのは、昨年1月にアーティスティック・イメージ&カルチャー・ディレクターに就任したオリヴィエ・サイヤール。マルセイユのモード博物館のディレクターに加え、パリのガリエラ宮パリ市立モード美術館の館長を歴任してきた、服飾史の専門家だ。靴作りのスペシャリストではない彼は、はたしてどんなアプローチで老舗での靴作りに取り組んでいるのだろうか。

「〈ジェイムウエトン〉には、合計11型のアイコンモデルが存在します。私の使命は、これらを掛け合わせながら“新しい子孫”を作ることだと思っています。家系図のように子どもをたくさん増やしていく感覚ですね。連綿と受け継がれてきた遺伝子を大切にしながら、ソールを厚くしたり、他モデルのステッチを使ってみたりといったアレンジを加えるわけです。長期的にはサンダルやスニーカーも含め、あらゆるタイプの靴を作りたいですね。もちろん、すべての靴が世界最高品質であることは大前提です」

スニーカーといえば、昨今の流行は快適さが好まれる現代の価値観とも密接に結びついたもの。靴作りにおける快適さというものを、どう捉えているのか？

「その点については、とても真剣に考えています。〈ジェイムウエトン〉にはラボがあるので、そこでまさに今、“新しい子孫”を軽量化するための研究を行っています。見た目はクラシックでありながら、かつてないほど軽やかな靴。アイコンの派生モデルと同時に、そうした未来のアイコンになっていくような靴もラボから生み出していきます」

オリヴィエ・サイヤールという新しい遺伝子が加わることで、歴史あるシューズメゾンの未来にどんな家系図が描かれていくのか。楽しみで仕方がない。

### 〈ジェイムウエトン〉

128年の歴史を持つフランスのシューズメゾン。自社タンナーを所有するほどの確かな生産体制を築き、ローファーの「180」に代表される名靴を生み出してきた。リニューアルした青山店は、オリヴィエ・サイヤールが手掛けた初のコンセプトショップとして話題に。芸術品のように展示された美しい靴とともに、彼の新作「180 シグニチャーローファートリプルソール」も並ぶ。

## Contents

- 10 Cover Story コリン・ファレル
- 13 in Your CLOSET
- 20 上質な“快適”を羽織ってみよう。
- 26 Beyond FIRST CLASS
- 28 Set your mind free! HEALING RESORT
- 34 Gastronomic City MOSCOW

発行人 Publisher

榊原達弥

Tatsuya Sakakibara

編集長 Editor in Chief

藤原 晃

Akira Fujiwara

広告部長 Advertising Director

成井 毅

Tsuyoshi Narui

コントリビューティング・エディター&ライター  
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠

Takumi Endo

大嶋 慧子

Keiko Oshima

古関千恵子

Chieko Koseki

柴田 充

Mitsuru Shibata

たかせ 藍沙

Aisha Takase

中村孝則

Takanori Nakamura

渡邊ひかる

Hikaru Watanabe

アートディレクター

Art Director

藤澤拓也

Takuya Fujisawa (ANAGUMA)

デザイナー

Designer

渋谷裕子

Yuko Shibue (ANAGUMA)

発行

株式会社日之出出版

〒104-8505 東京都中央区八丁堀4-6-5

編集 ☎03-5543-1230

広告 ☎03-5543-1139

●本誌掲載商品の価格表示はすべて本体のみ(税抜き)の価格です。  
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。  
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは編集部直通 ☎03-5543-1230 までお願いいたします。  
なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

**ア** イランドから彗星のごとく現れ、ハリウッドスターとして着々とキャリアを積み上げてきたコリン・ファレル。男くさい顔立ちと確かな演技力、通好みの作品選びで築いてきたフィルモグラフィは映画ファンにこそ大好評だが、出演作のすべてが一般に広く知れ渡っているとはいえないかもしれない。

そんなコリン・ファレルが、おそらく公開後には老若男女が劇場に駆けつけるであろう映画『ダンボ』に出演。タイトルからわかるように、往年のディズニーアニメを実写化した作品だ。『ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅』など、これまでもファミリー向けの大作と縁がなかったわけではない。だが、「配偶者のいない人間は動物の姿に変えられてしまう」世界を生きたり（『ロブスター』）、「欲望うごめく女子寄宿学園に迷いこむ兵士」を演じたり（『The Beguiled ビガイルド 欲望のめざめ』）。近年特にダークな作品を好んできた人が夢いっばいの世界で、大きな耳のかわいらしい子象と触れ合うとなれば……。これはちょっとした事件だ。

「コカイン中毒の汚職刑事（『TRUE DETECTIVE／トゥルー・ディテクティブ』）ばかりを演じてはられないからね（笑）。ただし、『ロブスター』のときもこう言われたよ。“あなたには珍しい作品ですね”とね。つまり、『ダンボ』のティム・パートンも、『ロブスター』のヨルゴス・ランティモスも卓越した独特のビジョンの持ち主であり、僕は彼らのような監督との仕事を求めている。役者に稀有な機会をもたらす作品をね。チームに関してはもう何年もの間、彼の作品に出演したいと願っていた。だから、彼の想像力や創造性に触れられる機会を存分に楽しんだよ」

演じるのは、サーカスの元看板スターであり、戦争から戻ってきたばかりの男。従軍中に妻を失い、幼い子供2人を抱えるホルトは、ダンボの世話係を務めることになる。

「僕は彼のことが大好きだ。ホルトはシンプルな男で、戦争に行く前は望む生活を送っていた。サーカス団の看板スターとして妻との生活を楽しみ、2人の子供にも恵まれたんだ。けれど、戦争がすべてを変えてしまった。数年の従軍を経て戻ってきたときには、左腕を失っていて、妻は他界。子供たちはすっかり疎遠になってしまっている。悲しみに溺れている彼は、親としてどう振舞えばいいのか、子育てをどうすればいいのかもわからない。そんな彼に、大きな耳を使って宙を舞うダンボの奇跡が希望を与える。とても美しい物語だといえるんじゃないかな」

さらには、「子供の前では、親はすべてのことをわかっているフリをするものだよ。自分の欠点や至らないところを隠して。でも、『ダンボ』の物語は、親がすべてを知らなくても平気だと教えてくれる」とも。ダンボとの触れ合いによって、子供たちと同じ目線で物事を学び、解決法を見つけていくホルトの姿に心を動かされたという。2003年に1人め、'09年に2人めの息子が誕生して以来、父親業を満喫しているというファレルらしい言葉だ。かつては私生活の恋愛事情にまで注目が集まったセクシー俳優も、今年で43歳。父親役がしっくりくる年齢になって久しい。

「子役と仕事をするときは、以前よりも彼らの安全を気にするようになったかな？ 父親になったことで変わったのはそれくらいだよ。ただ、自分の子供が観られる映画に出演できたのは嬉しいことだね。『ダンボ』が美しいのは、まさにこの点だと思う。重いテーマから目を背けず、子供でも処理できる形で提示されている。大人だけじゃなく、子供にも楽しんでもらえる映画を目指しているんだ。とはいえず、必ずしもうちの子たちが気に入るとは限らないんだけど。父親が出ているからといって、子供たちが無条件で気に入ってくれると思うほど僕は楽観的じゃない（笑）。でも、少なくともも彼らに

## PROFILE

1976年、アイルランド生まれ。ダブリンの演劇学校在学中からキャリアを積み、ジョエル・シュマッカー監督の戦争映画『タイガーランド』で注目を集める。以降、『マイノリティ・リポート』『S.W.A.T.』『マイアミ・バイス』など、数々のハリウッド大作に出演。『ヒットマンズ・レクイエム』ではゴールデングローブ賞主演男優賞に輝いた。近年の出演作に、『ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅』をはじめ、『聖なる鹿殺し』『キング・オブ・セイクリッド・ディア』などがある。

“The story is imbued with an incredible sweetness – there’s this pervasive sweetness and sense of hope and playfulness to the whole thing.”

このストーリーには信じられないほどの優しさが吹きこまれている。優しさが染み渡っているし、作品全体に希望や遊び心が行き渡っている。

—— コリン・ファレル

写真＝Art Streiber / AUGUST / amanaimages (表紙) 文＝渡邊ひかる  
photo : Art Streiber / AUGUST / amanaimages (COVER) text : Hikaru Watanabe

見せることはできるよね」

今後の待機作は、『それでも夜は明ける』などで知られるスティーヴ・マックイーン監督と組んだ映画『ロスト・マネー』、『さざなみ』のアン・ドリュュー・ヘイが監督を務めるドラマ『ザ・ノース・ウォーター（原題）』（今秋撮影開始予定）など。前者は犯罪者の妻たちが銀行強盗に乗り出すクライムサスペンス、後者はブッカー賞候補小説を映像化するサバイバルスリラー。少なくとも次男が鑑賞するのは先送りにしたほうがよさそうだが、「以前よりも映画やテレビの仕事を楽しんでいる」というファレルの心境は伝わってくる。どれも楽しみに待っていたくなるラインナップだ。

「けれども、以前よりも家を離れているのがつらくなってきている。人生というのはそういうものだよ。だから、キャリアの満足度は64%だったり、59%だったり、14%や24%になることもある。ただ、役者として生計が立てられていることは、今でも素敵なことだと思っているし、現状にはとてつもなく満足しているよ」

# COLIN FARRELL

【コリン・ファレル】

## 『ダンボ』



サーカスの新しい看板スターとしてショーに出るものの、大きすぎる耳を観客から笑いにされてしまう子象のダンボ。そんなダンボの世話係を任せられたのは、戦争帰りの元看板スター、ホルト（ファレル）だった。従軍中に最愛の妻を亡くし、幼い子供2人とともにダンボの世話をするホルトはある日、大きな耳をはためかせながら空を飛ぶダンボの姿を目撃し……。●3月29日より、全国ロードショー

©2019 Disney Enterprises, Inc. All Rights Reserved

in Your

## CLOSET\*

## 気分までも軽やかになるホワイトバッグ。

白いTシャツに惹かれるのは、その色に普遍的な魅力があるから。清潔感や洗練、爽やかなイメージに、軽快感も併せ持つ。これからの季節、白が美しく映える〈ベルルッティ〉のバッグを是非手にしたい。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原寛 ヘア&メイク=松本恵 文=柴田充 構成=大嶋慧子 撮影協力=恵比寿ホリックホテル  
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: Megumi Matsumoto(es\*QUISSE)  
text: Mitsuru Shibata composition: Keiko Oshima special thanks: EBISU HOLIC HOTEL

## BAG

ベルルッティの  
“トウジュール”

ブランドアイコンであるカリグラフィを描いた人気トート“トウジュール”に、日本限定のホワイトが登場した。展開されるトラベルポストンや日常使いにも便利なミニバッグには、ヴィッテロマットと呼ばれる柔らかなカーフレザーを使用。ボディからハンドルまで贅沢な1枚革で仕立てる。優雅な半面、白は汚れも目立ちやすい。だからこそホワイトバッグは大人のラグジュアリーであり、颯爽と手にした姿に持ち主の品格が宿るのだ。

バッグ、左33万4000円、右29万3000円、奥(参考色)59万5000円、ジップアップフルゾン51万5000円、ホワイトTシャツ6万3500円、パンツ8万2500円(以上ベルルッティ/ベルルッティ・インフォメーション・デスク)、その他はスタイリスト私物



in Your

# CLOSET\*

スポーティな休日に気分を盛り上げるもの。

スポーツの語源は“気晴らし”や“遊び”にあるという。ともすればストイックになりがちだが、気負わず、楽しみたい。そんなリラックスしたつき合いができるアイテムは、そのあり方自体がスポーティだ。

Moncler / モンクレール Tag Heuer / タグ・ホイヤー Hunting World / ハンティング・ワールド Saint Laurent / サンローラン



## SNEAKER

ハンティング・ワールドの  
“ハイテックレザー sneaker”



## BLOUSON

モンクレールの  
“ドゥサイン”



## BAG

サンローランの  
“ウエスト”



## WATCH

タグ・ホイヤーのカーボンコレクション  
“タグ・ホイヤー カレラ キャリバー ホイヤー02”

D

開口部にドロースト랩を備えたシンプルな巾着スタイルは、バックパックと手提げの2WAYで使える。広いマチを設け、収納性も高い。柔らかな上質のラムスキンは手触りもよく、折り畳むこともできるので、旅行のサブバッグとしても重宝するだろう。ボトムにさり気なくあしらったロゴも好印象を与える。

巾着バッグ16万5000円、スカーフ3万円(以上サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ / イヴ・サンローラン)

C

日本人デザイナーの相澤陽介をクリエイティブディレクターに迎え、モダンに変貌を遂げた〈ハンティング・ワールド〉。このブランド初のスニーカーが登場した。コレクションテーマ“マリン”から着想した波のパターンに、タンにはHWのロゴをあしらう。'90sスタイルにオマージュを捧げたスポーティな1足。

シューズ6万5000円(ハンティング・ワールド / ハンティング・ワールド帝国ホテル店)

B

1963年に登場し、ロングセラーを続ける“タグ・ホイヤー カレラ”が、さらなる進化を遂げた。軽量かつ耐久性に優れたカーボン素材をラグとベゼルに採用。スケルトンダイヤルは、ブルーのアクセントカラーにスポーティな精悍さが際立つ。また自社キャリバーの“ホイヤー02”を搭載。中身も盤石だ。

腕時計82万5000円(タグ・ホイヤー / LVMHウォッチ・ジュエリー ジャパン タグ・ホイヤー)、ジャケットとサングラスはAと同じ

A

世界中から有名デザイナーを招聘し、コラボレートする一大プロジェクト〈モンクレール ジーニアス〉からパーカタイプのブルゾンが登場した。撥水加工に加え、フロントの上下左右に止水ジップ付きポケットを備えるなど実用的。胸ワッペン“NOW”は、ブランドの頭3文字を逆さにした。こんな遊び心も楽しい。

ブルゾン25万8000円(2 モンクレール1952 / モンクレール ジャパン)、中に着たTシャツ3万6000円、グレースウェットパンツ5万7000円(以上モンクレール / モンクレール ジャパン)、サングラス3万4000円(アイヴァン / アイヴァン PR)、腕時計はBと同じ

in Your

**CLOSET\*****お洒落心が目覚める男のスプリングコート。**

風薫る季節を楽しむにはスプリングコートがいい。はためく裾に心は羽ばたくように軽やかになり、立てた襟にもダンディズムが薫る。うらかな日差しに映えるチェック柄にお洒落心もかき立てられる。

**COAT****ランバンの  
“チェックコート”**

ゆったりとしたフィット感のステンカラーコートは、それぞれ異なる素材を採用したチェック柄とネイビーのリバーシブル仕様。ジャケットスタイルに合うのはもちろんカットソーの上に羽織ったりと、カジュアルからドレスシーまであらゆるシーンで着まわせる。襟元にはメタルパーツを用いたチンストラップを備え、細部にもこだわる。軽量かつシワも目立ちにくいので、手にして持ち歩いたり、トラベルユースにもぴったりなアウターだ。

チェックのリバーシブルコート24万6000円、ジャケット16万4000円、ポロシャツ4万1000円、パンツ7万4000円、レザーバッグ20万8000円(以上ランバン/ランバン ジャパン)、その他はスタイリスト私物



FRONT

in Your

## CLOSET\*

休日のブラ散歩が楽しくなる快適アイテム。

新緑もまぶしくなるこの時季は街歩きへと誘われる。そんなときには普段のバッグは自宅に置いて、手ぶらで。装いは軽快に。ポケットに入れる小物は、コンパクトなものほどスタイリッシュさが損なわれない。



## SLIP ON

ジミー チュウの  
"マイクロソール スリッポン"C A  
D B

## JACKET

ロロ・ピアーナの  
"トラベラー・ジャケット"

## EARPHONE

マスター&ダイナミックの  
"ブルートゥースイヤフォン MW07"

## FRAGMENT CASE

ロエベの"フラグメントケース"

D

お気に入りの音楽があれば、散歩のフットワークがさらに軽くなる。ワイヤレスイヤフォンは絡まるコードに煩わされることがなくて便利。このブランドのものは心地よい装着感に加え、ハンドメイド調のアセテートで天然の素材感を表現する。充電機能を備えたメタルケースもスタイリッシュなデザイン。

ブルートゥースイヤフォン各3万9800円(以上マスター&ダイナミック/完実電気)

C

スウェードシューズは、実はこれからの季節に注目したいアイテム。素足が似合うローファーに、爽やかなネイビーとホワイトのカラーリングはマリンテイストにあふれる。超軽量でいて摩擦にも強いマイクロソールは歩き心地も快適。さらに、手縫い調のステッチなど上質な仕上げは大人の足元を軽やかに演出する。

ネイビースウェードのスリッポン9万1000円(ジミーチュウ)、パンツはAと同じ

B

最近ではキャッシュレス化が進み、大仰な財布を持ち歩くことも少なくなった。そこで、カード類をスマートに携行するケースにこだわりたい。〈ロエベ〉のものはエンボス加工を施したレザーにアナグラムを刻印し、黒のペインティングで仕上げた。コインを収納するジップは、サイドまで開き、使い勝手に優れる。

アナグラムのペイント入りフラグメントケース4万円(ロエベ/ロエベ ジャパン カスタマーサービス)、ジャケットはAと同じ

A

定番人気のM-65のスタイルに、ブランドの独自技術であるウィンドメイトとストームシステムを備えた。シワになりにくく、高い防水性や防風性があり、散歩はもちろん旅先でも活躍する。贅沢なカシミアのライニングを備え、快適かつラグジュアリーな着心地が味わえる、大人のフィールドジャケットだ。

トラベラー・ジャケット35万1000円、ニット13万9000円、パンツ6万5000円(以上ロロ・ピアーナ/ロロ・ピアーナ 銀座並木通り本店)、サンダラス3万2000円(モスコット/モスコット トウキョウ)、イヤフォンはDと同じ

# BRUNELLO CUCINELLI

## 快適な出張にはアンコンのリネン素材を選ぶのも手。

旅慣れた感はあるが、なにも自然と表れてしまうもの。出張先で気後れしないよう、ピークドラベルのジャケットをタイドアップで着てみる。肩に力が入りすぎると慣れしていない印象になるので、こういうときは気分的にもリラックスできるアンコンタイプを選ぶのが正解。生地はリネン素材ならリラックス気分にも寄り添い、快適。ウォッシュ加工を施し、ナチュラルな風合いに仕上げているので、着心地も柔らか。表情や身のこなしにも自然と余裕が生まれる。

柔らかい配色の千鳥格子柄も、かみのないジャケット姿の演出にひと役買ってくれる。ニットタイでドレス感を抑え、ジャケットが持つ雰囲気馴染み、よりシックな印象に。ジャケット36万円、ニット9万2000円、シャツ4万9000円、パンツ10万5000円、ニットタイ4万2000円、ポケットチーフ2万4000円、手に持ったコート31万3000円、キャリーバッグ68万円(以上ブルネロクチネリ/ブルネロクチネリジャパン)

# GIORGIO ARMANI

美しいのに楽なセットアップが増えています。

## 上質な“快適”を羽織ってみよう。

セットアップスーツは上下別売り。体型や好みに応じてサイズ違いで揃えられるうえ、色違いで楽しめるなど活用の幅が広い。最近では一流テイラーもそこに注目。“スーツのカジュアル化”に対応する快適素材やデザインを展開している。とはいえ仕立てと素材は上質で別格。その満足度はすこぶる高い。

写真=野口貴司、正重智生 スタyling=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大崎隼子 撮影協力=コンプレックスユニバーサルファニチャー サプライ photo: Takashi Noguchi, Tomoo Syoju(BOIL) styling: Ken Nakagawara(CaNA) hair&make-up: Megumi Matsumoto(es\*QUISSE) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima special thanks: COMPLEX UNIVERSAL FURNITURE SUPPLY

## Tシャツがよく似合う 清涼素材のセットアップ。

ネクタイをするほどではないが、きちんと感は損ないたくない。職業次第だが、そんな装いが必要になるときもある。このセットアップは、そんな場面で理想的な1着。カラダに美しくフィットするジャケットとパンツは見るからに上質。年相応の落ち着きも印象づけられる。一方で、パッチポケットやウィンドウペーン柄で力の抜けた雰囲気も。しかも、ストレッチの効いたウールは軽くて快適。ご覧のとおり、Tシャツで気楽に着こなすだけでもサマになり、オンはもとより、オフでも好印象を得られるだろう。

シックな配色とは裏腹に、シャドーウィンドウペーンの凹凸のある生地は清涼感たっぷり。また、着こなしに自然な奥行きが生まれる生地感も魅力。これからの時季にはぴったり。ジャケット33万円、Tシャツ7万1000円、パンツ16万円、レザーバック34万円(以上ジョルジオアルマーニ/ジョルジオアルマーニジャパン)。腕時計15万5000円(エンポリオアルマーニ スイスメイド/ジョルジオアルマーニジャパン)



Ermenegildo Zegna

極上素材の合わせ技で  
快適さはまさにケタ違い。

凹凸ある表面で、清涼感が楽しめるシアサッカー素材。コットン製が基本だが、このジャケットの素材はウールにシルク、そしてリネンをブレンド。これにより、ウールのしなやかさと絹の光沢感に加え、麻のハリ感まで楽しめることに。そのへんはさすがに〈エルメネジルドゼニア〉、素材の提案力は群を抜いている。そんなジャケットには白パンを合わせても気分がいい。テーマは清涼感を味わう週末。本来スーツで着るジャケットを単体でカジュアルに着こなせるのは、やはりセットアップのなせる業だ。

採用している「トロフェオ シアサッカー」という生地は、イタリア屈指の服地メーカーでもある同社のオリジナル。シアサッカーとしては珍しいグレーは、着られるシーンも多そうだ。ジャケット33万円、ポロシャツ4万6000円、パンツ5万8000円、シューズ5万9000円、手に持ったニット14万5000円、サングラス5万2000円(以上エルメネジルドゼニア/ゼニアカスタマーサービス)、その他はスタイリスト私物



ジャケットと同じ生地のパンツは少しテイバードを効かせたシルエット。セットアップで着るとよりエレガントな雰囲気になる。8万4000円(エルメネジルドゼニア/ゼニアカスタマーサービス)

今どきのビジネスマンには  
快適さと遊び心も必要。

ジャケットの着こなしに新鮮さが欲しいときは、変化球的な装いに挑戦してみてもいかがだろう。たとえば、〈ダンヒル〉が手掛けたこの1着。前合わせはダブルブレストドながら、ボタンを内どめするだけという斬新なデザインを採用。だから、ラベルと一緒にフロントがひらりと返り、軽快で個性的な表情を演出できる。一方、広めの肩幅とたっぷりした身頃というクラシックなシルエットも兼ね備える。デザインで遊んでいても大人のお洒落として成立するところが、このブランドらしさ。

1980年代に世界を席巻した「パワードレッシング」スタイルに着目し、現代的なアレンジを加えながら蘇らせた1着。張りのあるモヘアウールの生地で構築的なシルエットを描きつつ、仕立て自体は軽やかなアンコンに。ジャケット81万円、シャツ3万9000円、パンツ9万3000円、手に持ったバッグ21万6000円(以上ダンヒル)、メガネ参考商品(ダンヒル/デリーゴジャパン)



共地のパンツは、膝下をストンと絞った細身シルエット。ほどよくゆとりがあるジャケットにコントラストをつけながら、クリーンな着こなしが楽しめる。9万3000円(ダンヒル)

Dunhill

# GIORGIO ARMANI

〈ジョルジオ アルマーニ〉のスーツには  
まわりも唸る美フォルムと  
軽やかな快適素材がある。

スーツ選びでも、着心地のよさが最優先される今日この頃。そんな時代が到来する遙か昔から、確かな技術力から導かれた機能性を実現してきたのがこのブランド。快適かつ美しさでも群を抜くスーツなら、高い満足度が得られる。

写真=正重智生 スタイルリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子  
photo: Tomoo Syoju(BOLL) styling: Kan Nakagawara(CaNN)  
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

最

近はスーツの世界でも、快適さが重視されるようになってきた。しかし、そもそも仕立てのよいスーツは、体型を美しく補正しながら動きやすさにも配慮するのが大前提。シルエットでいえば、首の曲線に沿う“のぼり襟”はその代表例。そのうえで、腕の可動域などを確保することが、技術力の高さの証となる。そんな技術の最高峰を体現しているのが〈ジョルジオ アルマーニ〉。新作でも高品質は健在だ。

シルエットは、精悍な印象のストレートショルダーが映えるスリムフィット。ごく薄い肩パッドを使いウエストも絞っているが、締めつけ感や重さは感じない。その理由は、立体的な裁断や非常に軽いウールの服地が快適さに貢献しているため。サイズ感が微妙に合わなければ、既製品価格の10%プラスだけで“メイドトゥオーダー”をすることも可能。より高いフィットを得られれば、動きやすさに配慮したパターンや生地自体の質の高さを体感しやすいはず。しかも仕立ては本国のミラノで行われるので、腕は確かだ。

## SHADOW STRIPE SUIT

[シャドー ストライプ スーツ]

単色ながら、格子状の織り柄が浮かび上がる生地が個性的かつ爽やか。ふわりと軽い着心地も、スーツとしては極めて新鮮。ゴーゼラインは高く、Vゾーンはやや広め。絶妙なバランスが、美しくシェイプしたシルエットを引き立てる。スーツ38万円、シャツ6万2000円、ネクタイ2万8000円、ポケットチーフ1万6000円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)



GUCCI

足元で個性を語る〈グッチ〉。  
新しいホースビットは  
小ぶりでも格上げ効果絶大。

今でも長く愛され続ける“ホースビット ローファー”。その新たなデザインが登場。サドル部分にあしらわれたホースビットは以前より小ぶりながら、印象はまさにスタイリッシュ。時代を超越した意匠が放つ存在感は絶大だ。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子  
photo: Tomoo Syoju(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



## 靴

にこだわりが感じられる男性は、間違いなく洒落て見えるもの。とはいえ、過ぎたるは及ばざるがごとし。そのこだわりアピールが必要以上に強いと、ビジネスでは敬遠されることもある。それに、頑張りすぎている印象はいい年の大人には禁物。足元のお洒落にこだわるなら、〈グッチ〉の新作ローファー

のような、さりげないアピールがあるくらいが理想的だ。

サドルの印象を特徴づけているのは、ブランドを象徴するアイコンの1つでもあるホースビット。これが誕生したのは1953年のこと。馬具の轡(くつわ)をモチーフにしたその意匠は、当時の紳士靴では極めて珍しいもので、アラン・ドロンを筆頭に稀

代のウェルドレッサーに愛されてきた。そんなホースビットを纏った最新作は、由緒正しい意匠がぐっと小ぶりに。一方で、中央を“ダブルG”で飾っているのも、その存在感はむしろかつてより増しているようにも見える。さらに、パンプシューズのようなロングノーズもすっきりと好印象。これなら休日のお洒落にも活躍してくれそうだ。

## HORSEBIT LOAFERS

[ホースビット ローファー]

サドルの意匠に加え、美しさと力強さが同居する細身のスクエアトゥも印象的。しなやかなフィット感がありながら、形状をしっかり保持できる上質なレザーと仕立てを採用。踵部分を内側に折りたたみ、スリッポンとしても履ける仕様になっている。シューズ各10万5000円、バッグ22万5000円、メガネ7万6000円。(以上グッチ/グッチ ジャパン カスタマーサービス)



新「スイート」は前後のシートを翻  
けて使うことができるため広々  
ベッドを進行方向横向きにして、  
窓側のダブルベッドを実現した

## 02 窓を背にしたダブルベッドで極上の眠りを。 SINGAPORE AIRLINES “スイート”



A:6席のスイートに化粧室は2室。うち1室には座  
って利用できる化粧台が設置されている B:各座席  
には収納もたっぷり。コントローラーはタブレット  
サイズの大型だ C:5月31日までの期間限定機  
内食がこちら。京都の老舗料亭「菊乃井」主人の村  
田吉弘が考案した、桜をテーマとした京懐石が楽  
しめる D:リクライニング式座席とは別にベ  
ッドが備えられている E:座席からもベッドから  
も見えることができるモニターは32インチと大型

**DATA**

シンガポール航空 SINGAPORE AIRLINES  
www.singaporeair.com

**成** 田に8月からの運航が予定されているのは、シンガポール航空の新「スイート」。同社はこれまでも、中央2席がダブルベッドになる座席を世界ではじめて導入するなど、ラグジュアリーかつ画期的な座席で世界を驚かせてきた。

新「スイート」は、総革張りの座席とは別にフルフラットベッドがあり、進行方向に対して横向きという、かつてない斬新なデザインとなった。4年の歳月をかけて開発され、世界最大の総2階建て旅客機A380型機に、2017年12月から導入が開始された。シンガポール航空が、またしてもやってくれたというわけだ。

成田には4月28日からA380型機が再就航するが、7月までは従来型の「スイート」での運航となる。今年の夏旅は8月以降にして、就航したての新「スイート」に一番乗りしたい。

ちなみにシンガポール・チャンギ国際空港には、「プライベート・ルーム」がある。シンガポール航空のファーストクラス搭乗客のみが利用できるラウンジだ。新「スイート」と併せて楽しみたい。

## Beyond FIRST CLASS\*

機内に想像を超える驚きがあります。

旅客機内に、ファーストクラスの上のクラスがあることをご存知だろうか。まるでホテルの客室のような、広々とした占有空間だ。その、知られざる雲の上の世界をご紹介します。

文=たかせ藍沙 Text: Aisha Takase

### ファーストクラスの先へと 進化を続ける空の旅。

ヨーロッパやアメリカへ、片道100万円以上するフライトがある。ファーストクラスだ。チェックインも別格で、空港によってはファーストクラス専用ラウンジが用意されていることもある。ビジネスクラスの居住性が向上する中、ファーストクラスは、その遥か上で進化し続けている。まるで、各社が豪華さとアイデアを競っているかのようだ。

近年のファーストクラスの主流は、扉で仕切った半個室のシート。続いて、天井までのドアやカーテンで仕切る完全個室

タイプも登場。完全にプライバシーが確保され、仕事に集中したり、さらにリラックスして休んだりできるようになったのだ。同行者と近くに座りたい場合は、中央の2席を選ぶこともできる。

ここまで豪華になったらその先はプライベートジェットしかないと思いきや、いい意味で予想を裏切る、「ファーストクラスの上のクラス」が出現している。それが、今回ご紹介するシンガポール航空の「スイート」とエティハド航空の「ザ・レジデンス」。どちらもファーストクラスとは別のクラス設定。もはや座席というよりも、客室と呼びたくなる広々とした占有空間がそこにある。



シャワーを浴びてバス  
ロープで身だしなみを  
整える男性。高級ホテル  
のバスルームかと思  
いきや、実はエティハ  
ド航空の機内なのだ

/ え!? 飛行中にバスロープ? \

## 01 3室を占有する雲の上の邸宅。 ETIHAD AIRWAYS “ザ・レジデンス”



**世** 界で最も豪華なフライトを運航しているのは、アラブ首長国連邦のアブダビを拠点とするエティハド航空。大型旅客機の中に、「ザ・レジデンス(邸宅)」がある。

同社のフライトには、扉がついた半個室の「ファーストスイート」、座席とベッドが分かれている「ファーストアパートメント」があるが、「ザ・レジデンス」はその上のカテゴリとなる。この特別室はA380型機の「ファーストスイート」の前方に位置し、リビングルーム、ベッドルーム、エンスイートシャワールームの3室を占有。まさに「邸宅」という名にふさわしい、天空の別荘だ。

定員は一緒に旅行する2名。フライト中には、上の写真のバスロープのほかに就寝用ウェアも用意されている。さらに、専任のバトラー、シェフも同乗するという徹底ぶり。まるでトップセレブのプライベートジェットのような趣だ。

2019年4月現在、日本便には設定がないが、アブダビからロンドン、パリ、ニューヨークに飛ぶほか、7月からはソウルが加わる予定となっている。



A:ベッドルームには長さ約208cm、幅約120cmの  
ダブルベッド。27インチのモニター、クローゼット  
がある B:シャワー付きバスルームには(アク  
アディバブル)のアメニティが配られ、姿見もあ  
る C:ビジネスクラス以上の搭乗客が利用できる  
機内ラウンジ D:リビングルームには幅約150  
cmの革張りのソファと32インチのモニター、2つ  
のダイニングテーブルがあり、シェフが機内で仕  
上げた機内食を楽しむことができる

**DATA**

エティハド航空 ETIHAD AIRWAYS  
www.etihad.com

実はこのリゾート……



先端技術を結集したエコステーションがあり、ほとんどの電力を海洋深層水や太陽光など再生エネルギーでカバー。生ごみを堆肥にして菜園に使用するなど、米国の環境評価ツールLEED認証の最高位プラチナも獲得。



A:1室のみの3ベッドルームは広さ246㎡。名立たるセレブがここで休日を過ごしている B:光がたっぷり差しこむバスルーム。バッグや日焼け止め、ビーチサンダルなどアメニティも充実 C:ギー・マルタン監修の“レ・ミュティネ”。島であることを忘れるほどのハイクオリティな食体験! D:ポリネシア料理から王道フレンチまで供する、オールデイダイニング。曜日によってはポリネシアダンスショーも開催



**往** 年のハリウッドスター、マロン・ブランドが、撮影時に訪れたタヒチでひと目惚れした環境をお買い上げ。それがこのティアロア環境。そしてココは、マロンの愛した美しい自然をはじめ動植物の多様性、豊かな文化を次世代に繋ごうと継承しているリゾートだ。35棟のヴィラは広さなんと162㎡以上。ベッドルームとリビング、バスルーム、書斎のようなメディアルームからなり、

プライベートプールやガゼボ(東屋)もつづらえた贅沢な邸宅風。オールインクルーシブ制なので、宿泊料には飲食や多くのアクティビティ料が含まれている。スターシェフのギー・マルタンがプロデュースするフレンチレストランや、ポリネシア様式のスパなど、施設は選りすぐり。さらに、生物学者と鳥を探検したり、様々なマリンスポーツを楽しんだり、豊かな自然を満喫するエクスカージョンも充実している。

Set your mind free!

# HEALING RESORT\*

心とカラダが満たされる大人のリゾート。

美しい自然に抱かれラグジュアリーな滞在が叶う極上リゾート。なかでもこの3つのリゾートにはある共通点。それは、滞在することで社会貢献に繋がる、良心までも満たしてくれる大人のリゾートということ。

文=古閑千恵子 text=Chieko Koseki



## 01 マロン・ブランドの思いを継ぐプライベート島。 THE BRANDO in Tahiti

【ザ・ブランド】

DATA

〒Tetiaroa Private Island Arue, Tahiti, French Polynesia  
☎+689-865-3001(日本の問い合わせ先:03-5405-9213[代表])  
www.thebrando.com/

12の島々からなるティエティアロア環境。そのうちリゾートがあるのはオネタヒ島。周囲の島々や海を巡るエクスカージョンを是非!

## 03 島の自然と共存する築200年のバリ様式ヴィラ。

# RATUA ISLAND RESORT & SPA

【ラトゥア・アイランド・リゾート&スパ】 in Vanuatu

DATA

〒Sanma, Santo, Luganville, 396, Vanuatu  
☎+678-5333-303  
http://ratua.com/

**工** スピリット・サント島の南、フランス人オーナーが世界各国をクルーズ中に見出した島。島名は地元の言葉で“誰でも大歓迎”を意味する。客室は築200年のバリ島の家屋を解体し、丁寧に組み立て直したもの。手彫りが美しいヴィンテージのチーク材の風合いと、家具との調

和も重厚で落ち着く。海辺での乗馬、カメやエイと合えるスノーケリング、水上に築かれたスパなど、シンプルな島ながらアクティビティに事欠かない。食は半径10kmで生産された野菜・魚・肉を使い、素材の味を引き出したメニューを用意。プライベートディナーは好きな場所にアレンジできる。

## 02 “世界一”の称号も獲得した秘境リゾート。

# NIHI SUMBA in Indonesia

DATA

〒Desa Hobawawi, Kecamatan Wanukaka, Sumba, 87272 Indonesia  
☎+62-361-757149 http://nihi.com/



空港から船で約30分、丘の上からリゾートを見下ろせば、その美しさに感動もひとしお。



フランス人オーナーが島の長老に託された146エーカーの敷地にリゾートを展開。42名まで滞在でき、島を丸ごとチャーターもできる。



H:バリ島の山間部から運んだチーク材のヴィラ。結れた木の風合いが感じられる。I:自家菜園の有機野菜、赤身がうまいサント・オーガニック・ビーフなどを、海の眺めを満喫しながら楽しめる。J:ヴィンテージのチーク材を使った洋上のスパ。トリートメントには、食べても問題がないオーガニックなプロダクトを使用

実はこのリゾート……



リゾートの収益はラトゥア財団を通して、100%社会支援に使われる。毎年、学校の建設や文化的プロジェクトなどを実施。“1チャイルド1バッグ”運動では毎年子供たち全員に文具の詰まったバッグをプレゼント。



E:部屋は自然素材の建材を使用。自然を肌で感じられる、裸足で過ごすベアフットラグジュアリーなヴィラが33棟。フリーハウスのようなタイプもある F:プールやスパ、スタンドアップパドルボードやサーフィンのレンタル&スクールなど、ビーチリゾートの施設は充実している G:敷地内で育てたオーガニック野菜や漁師が持ちこむ魚介は鮮度抜群。パンはトースターでなく火で焼くこだわり。アルコールを除く飲食を含む、オールインクルーシブ制

**数** 世紀前にタイムトリップしたような、昔ながらの慣習が色濃く残るスンバ島。島の南東に位置するココは、秘境に忽然と現れたパラダイス。リゾートの前には約2.5kmもの白砂ビーチが広がり、すぐ沖にある極上のサーフスポットもゲストが独占できる。567エーカーの敷地にはネイチャー系ヴィラがわずか33棟。各戸でデザインが異なるが、そ

のほとんどにプライベートプールが付く、バトラーサービスが受けられる。敷地内には乗馬体験ができる固有種のスンバ馬の厩舎もある。おすすめアクティビティは“スパ・サファリ”。トレッキング+伝統的な集落訪問+海辺のスパ施設でトリートメントをし放題。リゾート開発とは縁遠い島にありながら、『トラベル+レジャー』誌の“世界一のホテル”に2度も輝く快挙を果たす。

実はこのリゾート……



リゾートの収益は、この創業者が設立した“スンバ財団”を通して島の暮らしに役立てられている。これまで100以上の井戸を建設し、小学校給食も実施。英語教育のサポートや図書室の設置も。



向井さん  
着用

**Ramie Honeycomb Mesh**

[ラミー ハニカム メッシュ]

ポリエステルとリネンを特殊な編み方で融合し、シワになりやすいという麻の弱点を解消。メッシュ状で清涼感のある着心地に仕上げた。パンツは細身のテイパード。ジャケット各4万5000円、パンツ2万3000円(以上CK カルバン・クライン/オンワード樫山 お客様相談室)

**ジャージ素材の快適さを味わえば  
オンオフ問わず手放せなくなる。**

こちらも右の1着と同じく、スリムでコンパクトなシルエット。素材は、高機能なポリエステルに上質なリネンを配合したオリジナル。ジャージ素材で、ストレッチ性が極めて高く、見た目もシック。ビジネス、休日ともに活用できそう。

Tシャツ1万2000円、中に着た白いTシャツ1万2000円、パンツ2万3000円(以上CK カルバン・クライン/オンワード樫山 お客様相談室)、手に持ったサングラス2万8000円(カルバン・クライン/マーシオン ジャパン)

**ビ**ジネスの装いに対する意識が変わり、礼節を保ちながら快適さも得られるセットアップが人気を博している。今回、俳優の向井理さんが着用した〈CK カルバン・クライン〉の新作も、そんな時代の気分がぴたりとハマる仕上がりに。まずは向井さんに、スーツとの付き合い方を聞いてみた。「僕がスーツを着るのは、役者としてビジネスマンや弁護士を演じる時。そんなときは役柄の年齢や社会的地位を考慮し、ネクタイのノットの作り方や合わせる腕時計にも気を配ります。こうしたデ

ィテールは、演技に説得力を出すための要素でもあるんです」と、些細な演出に面白さも感じているようだ。一方で、着心地もセットアップも好んで着るといふ。「昔はテイラードというフォーマルな印象しかありませんでしたが、最近はカジュアルな服と合わせて、着るシーンを広げることが。セットアップはそういった着方にちょうどいい。今日着た2着はストレッチがきいていて動きやすい。これは、オンオフで嬉しい機能ですね」スーツ巧者の向井さんも、その快適このうえない仕立てが気に入ったようだ。

**ジャケットで**



向井さん  
着用

**Mechanical Stretch Nylon**

[メカニカル ストレッチ ナイロン]

オックスフォード生地のような表情ながら、伸縮率が約2倍という驚異的なストレッチ性を誇る素材感。復元力があるのでシワもつきにくい。各4万2000円(以上CK カルバン・クライン/オンワード樫山 お客様相談室)

**軽やかな細身セットアップは  
シワがつきにくい素材感も魅力。**

ジャケットは、向井さんの引き締まったカラダにも映える細身のシルエット。ナローラベルを採用した都会的なスタイルが特徴だ。前身頃は1枚仕立てでさらりとした着用感。素材がナイロンなので、乾きも早く家庭での洗濯も可能。

シャツ1万6000円、パンツ2万1000円、肩からかけたコート4万2000円、ベルト1万5000円(以上CK カルバン・クライン/オンワード樫山 お客様相談室)、シューズ、スーツケースはスタイリスト私物

**スーツで**



**CK CALVIN KLEIN**

**俳優・向井理さんが着こなす  
〈CK カルバン・クライン〉なら、  
軽快セットアップも  
アレンジ自在で都会的。**

ワークライフバランスへの関心が高まり、働き方のスタイルも変わってきた。そんな時代にも映える〈CK カルバン・クライン〉のアレンジ自在なセットアップを、俳優・向井理さんが着こなす。

写真＝野口貴司、正重智生 スタイルリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝菅一朗 文＝逸藤 匠 構成＝大嶋 睦子  
photo: Takashi Noguchi, Tomoo Syuji(BOE), styling: Ken Nakagawara(CoVA), hair&make-up: Shunichiro(Boops) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

**Profile**

**向井 理さん**

1982年生まれ。2006年に俳優デビュー。4月放映開始のドラマ「わたし、定時で帰ります。」や、6月21日公開の映画「ザ・ファブル」に出演し、Bunkamura30周年記念作品「美しく青く」でも主役を演じる。



DRESSING



VAN

〈ヴァン〉が進化させたブレザーなら

## 誠実な見た目に加え 抜群の快適さが手に入る。

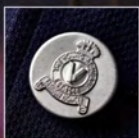
爽やかな好印象を残したい日はブレザーを着るといい。特にメッシュユニット仕立てのこの1着なら、汗ばむ季節も涼しくて便利。さらに、BDシャツとレジメンタルタイで着こなせば、お洒落で誠実な印象も思いのまま。これで取引もうまくいくのでは？

写真＝野口貴司、正重智生 スタイルिंग＝中川 夏 ヘア＆メイク＝松本 恵  
文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子 撮影協力＝ウルフマンバーバースhop  
photo: Takashi Noguchi, Tomoo Syoju(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN)  
hair&make-up: Megumi Matsumoto(es\*QUISSE) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima  
special thanks: WOLFMAN BARBERSHOP

### クイックドライ素材の紺ブレだから 春夏のジャケパンスタイルにぴったり。

3つボタン段返りという由緒正しいアイビースタイルを踏襲しながら、吸汗速乾性に富むメッシュユニット素材を採用。副資材を省いたアンコン仕立ては、まさに快適そのもの。まるでカーディガンのような着心地。

採用しているメッシュユニットは伸縮性も抜群。椅子に腰かけたり、腕を曲げたりする際もストレスを全く感じることがない。生地自体がキックバックする力もあるので、シワになりにくいという利点も。快適さと実用性の高さも兼ね備えた1着ゆえ、オンオフで頼りになりそう。ブレザー2万7000円、シャツ1万4000円、パンツ1万9000円、タイ9000円(以上ヴァン/ヴァンジャケット)、その他はスタイリスト私物



日本のアイビー文化を牽引した老舗のエンブレムを、さりげなく描いたメタルボタン

# FREDERIC MALLE

著名な調香師が手掛ける〈フレデリック マル〉。

好印象を残すには、“香りの芸術”が頼りになる。

香りは時に場の空気感を変える。ましてそれがラグジュアリーな香り豊かな香水だったら、視覚的な情報以上の演出ができるというもの。さらに著名な調香師が手掛けたものとなれば、香り自体が1つの芸術だ。

写真=正重智生 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子

photo: Tomoo Syoju(BOIL) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima



## GERANIUM POUR MONSIEUR

[ゼラニウム プール ムッシュー]

## VETIVER EXTRAORDINAIRE

[ベチベル エクストラオーディーネール]

**フ**レグランスは、自分らしさを印象づけるシグネチャーになりうるもの。また、それがわかりやすく上質なものであれば、香りひとつで好感度を上げるなんてことも夢ではない。そんな奥深き世界を探求し、魔法のような香りを紡ぎ出しているのが調香師たち。フランスから本格上陸を果たした〈フレ

デリック マル〉は、そんな調香師の技を存分に体験できるブランドだ。創業者のフレデリック・マルは〈バルファン・クリスチャン・ディオール〉の創設者を祖父に持ち、各ボトルに“作者”として調香師の名を記し、その才能と技術に光を当てた人物。芸術性の高い香水を生み出す手腕が、高評価を得ている。今回紹

介するのは、従来の香水の常識を覆し、傑作を生み出しているドミニク・ロピオンが調香したもの。一般的な香水の約3倍の量のベチバーを用い、あざやかかつフレッシュな香りを表現している。斬新ながら調和のとれた唯一無二の香りが、自分も知らなかった新しい魅力を引き出してくれるかもしれない。

右: トップノートは、清々しいベルガモットやビターオレンジ。型破りともいえる多量のベチバーに5つのウッディノートを掛け合わせることで、ベチバーの新たな魅力を引き出した。100ml。3万6000円 左: ゼラニウムを軸に、大量のムスクやミント等のスパイスをブレンド。そこにエキゾチックノートを加え、透明感のある香りに。100ml。3万円(以上フレデリック マル/フレデリック マル お客様相談室)



# Gastronomic City MOSCOW\*

シヤといえば、ボルシチやピロシキなどの伝統料理を思い浮かべる人は多いだろう。しかし、近年はモスクワを中心に、続々と美食レストランが誕生して話題だ。その火つけ役が、モスクワの〈ホワイト ラビット (White Rabbit)〉だろう。この店は現在、私が日本評議委員長を務める“世界ベストレストラン50”で、15位にランクインしている。シェフのウラジミール・ムーヒン (Vladimir Mukhin) は、ロシアのロコの食材や伝統的な食文化をベースに、革新的なアプローチで新しい料理を次々と生み出し、世界の美食家たちを驚かせている。

今回は〈ホワイト ラビット〉のほかに、昨年彼がオープンさせた〈サハリン (Sakhalin)〉という新しいレストランも訪れた。写真をご覧になってわかると思うが、彼の料理の多くは、新鮮な魚介類で構成されている。それらは、ロシア全土に広がる海域や湖から取り寄せたものだ。なかでもレッドキャビアと呼ばれるイクラは、シグネチャー・ディッシュにもなっている。そもそも、イクラは大正時代以降に日本に伝わったもので、イクラはロシア語なのだ。今回は、シェフのウラジミールと、彼が仕入れるモスクワ市内の市場、ダニーロフスキー市場にも訪れたが、イクラだけでも魚種別、味付け別で相当の種類があり、その美味しさには驚かされた。そのほか、魚の燻製や乾物、あるいは発酵食品など魅力的な食材にあふれていて、眺めるだけでも楽しい。モスクワに行くなら是非とも訪れてほしいと思う。

そして、注目はなんといっても最新レストラン〈サハリン〉だろう。サハリンは樺太のこと。店内は極東ロシアをイメージしたクールなデザインで統一され、多くの食材が極東から空輸されている。店内の水槽には、生きたカニやエビ、貝類やウニや牡蠣がディスプレイされ、なんとモダンにアレンジされた日本料理として提供されるのだ。日本とロシアにとって、極東は政治的にはナーバスなエリアだが、こと美食では友好的に共感し合えるのでは、と前向きな解釈とともにおすすめしておこう。



取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県葉山生まれ。ファッションからカルチャー、美食などをテーマに新聞や雑誌、テレビで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼修業』（世界文化社）がある。2013年より“世界ベストレストラン50”の日本評議委員長も務める。さらに、グラナバダーとバルマハムの親善大使に任命されている。

## モスクワで鮮魚ブーム到来。

今モスクワでは、近年の好景気に刺激され、美食レストランが続々と誕生している。その筆頭が、世界ベストレストラン50で15位の〈ホワイト ラビット〉。今回は、シェフのウラジミールさんと一緒に市場や、彼の最新レストランを巡った。

取材・文=中村孝則 text: Takanori Nakamura



### White Rabbit

【ホワイト ラビット】

世界の美食家を唸らせる  
ロシア屈指の美食レストラン。

〈ホワイト ラビット〉のシェフのウラジミールは、ロシア南部の出身。ロシアの伝統的な食材や食文化を研究し、それを現代的にアレンジして提供する。コースのほかにアラカルトでも注文できるのも嬉しい。ビジネスパーソンから家族連れ、カップルなど幅広い客層が訪れ、全体的にアットホームな雰囲気なのもいい。

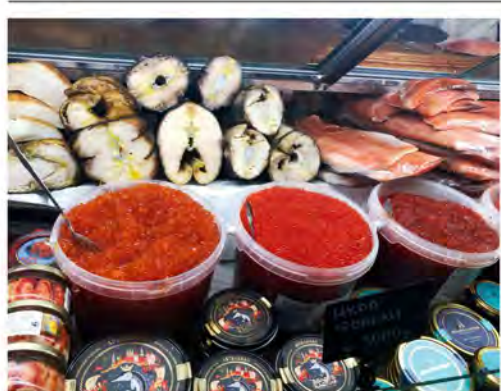


A: 料理の多くは、魚介や野菜も使われ、ヘルシーで軽やかに仕立てている。ふんだんに添えられた新鮮なイクラやキャビアも嬉しい B: 200人を取容できる店は、ビルの最上階のガラス張り。モスクワを見渡せるパノラマビューも楽しみどころ C: キノコ類も豊富 D: エビを使ったコクのあるひと皿

#### DATA

☎ Smolenskaya Square, 3, Moskva  
☎ +7-495-782-62-62

### TOPIC



### モスクワの台所 ダニーロフスキー市場。

この市場の開業は1963年。モスクワっ子の胃袋を支え続けているが、近年リニューアルされ、清潔で歩きやすく、見ているだけでも楽しい。魚介をはじめ、野菜や肉、フルーツのほか、飲食店もあり、旅行者の買い物や食事、お土産探しにも便利。



### Sakhalin

【サハリン】

### ロシア極東がテーマの モダン日本料理店。

極東の樺太をイメージした店内は、超モダンなインテリアの魚介専門店。日本料理をテーマにしたというだけあり、刺身や寿司も提供する。ワインやウオッカはもちろんだが、地ビールや日本酒など、ドリンクのペアリングも楽しい。ドレスアップして出かけたレストラン。



A: 殻付きで提供される新鮮なウニ。こちらは、シグネチャー・ディッシュの1つ B: その日届いたフレッシュな魚は、刺身や寿司などお好みで注文できるのが嬉しい。そのほか、ロシア風にアレンジした料理の数々も楽しめる

#### DATA

☎ AZIMUT Hotel Smolenskaya Moscow,  
Smolenskaya Ulitsa, 8, Moskva  
☎ +7-495-647-647-9